

4/23

郷土の名産『タケノコ』を求めて 櫛淵小学校児童が収穫体験



ハセバを使って上手にタケノコを掘る櫛淵小児童

郷土の名産『タケノコ』を収穫することを通して、自然に親しみ生産の喜びを味わってもらおうと4月23日、市立櫛淵小学校（岡崎能治校長）の学校林で、タケノコ掘りの体験授業が行われました。体験授業に参加したのは、同校4年生から6年生までの児童16名で、PTA会長で地元農家の中山さんから掘り方の指導や、ハセバと言われる専用の道具の安全な使い方を教わった後、学校から500メートルほど離れた学校林（約5アール）へ移動、タケノコを掘りました。授業前週の雨と近日の暖かさでタケノコが大きく成長したこともあり、1時間足らずの作業で6年生の浜田君が12本収穫したのを始め、約100キロものタケノコを収穫、1年生から3年生までの児童16名を含めた31名で皮むきをして授業は終了しました。

収穫したタケノコは、後日の給食でタケノコご飯として振舞われ、児童らは地元で採れた旬の味覚を楽しむことができました。

5/1

いつまでもお元気で 原ミチエさん満百歳を祝う



元気に満百歳の誕生日を迎えられた原ミチエさん

新居見町の原ミチエさんが5月1日、満百歳の誕生日を迎えられ、入院する市内の病院を稲田市長や県職員らが訪問し、祝い状や記念品を贈り長寿を祝いました。原さんは明治41年生まれ。年齢のため足が弱っており、昨年11月から入院療養中で、車いすを利用されていますが、しっかりと食事もお餅が大好きだそうです。また、「孫たちが見舞いに来るのが楽しみ」と表情豊かにお話されるなど、お元気そのものでした。

5/8

素足で体験授業 和田島小学校で児童が田植え

水を張った田んぼに素足を入れ、苗を手で植えることにより自然とふれあい、物作りの喜びを感じてもらおうと5月8日、市立和田島小学校（園田壽校長）で田植えの体験授業が行われました。田植えをしたのは、同校5年生と6年生の児童96名。住民の方から借り受けた田んぼ（約10アール）で、PTA会長や地元農家の方から苗の植え方を教わった後、校長先生や先生方が4月初旬から育てていた、もち米の苗を約20センチ間隔で目印が

ついたロープに沿って丁寧に植えました。児童の中には、ぬかるんだ田んぼに足をとられ転倒し、泥だらけになっている子もおり、周辺には終始にぎやかな声が響いていました。秋には児童らが手にカマを持ち、10俵余りのもち米を収穫する予定で、11月には収穫祭が行われ、収穫の半分を使用しておもちをつき、残りは来年3月の卒業式で赤飯として全校児童に配られるなど、1年を通して農業の大切さと地産地消の重要性を学びます。



目印のロープに沿って丁寧に苗を植える和田島小児童

5/10

小学生が図書館の仕事を体験 本の大切さを学ぶ

こども読書週間の特別企画として5月10日、小松島市立図書館で市内の小学生16人が、「こども1日図書館員」として、図書館の仕事を体験しました。本の貸し出しや返却、返却された本を棚に戻す作業などを体験。参加した小松島小学校4年の久米千晶さんと住友亜優さんは、「本が多いので、棚に戻す作業は場所を探すのが大変」と話すなど、仕事の大変さや本の大切さを学びながら、図書館業務を体験することができました。



返却された本を棚に戻す作業を教わる小学生ら